損失回避：何かをした時の後悔と何もしなかった時の後悔について

損失回避とは、人は何か手にするよりも失う方がダメージがデカいと感じると言う意味です。

例えばビジネスで顧客にしたい人に対して、弊社の商品サービスを使うとこんな良い事ありますよ！と相手が手にする良い事を言うよりも、弊社の商品サービスを使わないとこんなチャンスを失いますよと言った方が説得力があると言う話です。

巷でよく言われるのが、何もしない後悔よりも何かをした方が、ダメでも後悔は小さい、もしくは後悔しないからと言う名言がありますが、損失回避と言う視点から一つ意見を述べさせて頂きますと、何かをした時に、もしその何かを掴みかけたり、あと少しで何かを手に入れる事が出来たんだが、最終的には手に入れる事が出来なかったと言う状態は人に凄まじいショックを与える物なんです。

あと少しで金メダルだった銀メダリストがどれだけショックを受けたであろうか。それなら、銅メダルの方が良かったと思うメダリストも居るのではないでしょうか？

話は変わりまして、この心理を利用して、例えばパチンコ屋なんてのは、ドラマティックな映像と音声であと少しで掴める当たりを演出して、無残にもハズレを出すわけです。人は惜しかったと言って、その悔しさが動機となり、再びスロットマシンの前に腰を掛けるのです。リーチだろうと、最初からダメダメのハズレだろうと、統計学的に当たる確率は変わらないのです。

最後に、何かをしても、それを掴みかけたら、損失回避で多大なショックを受ける事だってあると今回の動画で申し上げましたが、それでも行動すべきだと私は思います。

Amazon社長のジェフ・ベゾス氏はAmazonを始めるか、会社に残るかと言う事を悩んでいた時に、８０歳になった時の自分を思い浮かべて、仕事を辞めた事に後悔しているだろうか？と自問した時に、Amazonをやらなかったと言う事の方がきっと後悔していて、その後悔はずっと僕の人生を呪っていただろうとおっしゃっています。

何か行動や決断を迫られた時、８０歳のあなたが後悔していないであろう選択肢を選ぶのが賢明なのかもしれません。